

会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考	
本 部	11月14日(木) ~26日(金)	秋のエクスカーション	関東地方	10号4 ページ参照	
	12月5日(木) ~6日(金)	第15回海岸工学講演会	福岡市	10号5 "	
	1月28日(火) ~29日(水)	第3回土木計画学シンポジウム	土木学会	10号7 "	
	1月31日(金) ~2月1日(土)	第5回衛生工学研究討論会	同	10号8 "	
	2月7日(金) ~8日(土)	第13回水理講演会	東京	10号6 "	
	2月27日(木) ~28日(金)	第5回岩盤力学に関するシンポジウム	同	10号8 "	
関東支部	10月27日(水)	講演会	土木学会	8号9 "	
	11月5日(火)	講習会	東京	10号10 "	
	11月13日(水) ~14日(木)	同	同	10号11 "	
関西支部	10月19日(土) 10月26日(土)	学生見学会	大阪府	9号9 "	
	10月22日(火)	見学会	京都府	9号10 "	
	10月31日(木)	研究会	神戸市	9号10 "	
	11月15日(金)	講習会	大阪府	10号11 "	
	11月15日(金)	若い会員懇親パーティ	同	10号12 "	
	11月20日(水) 11月21日(木)	第2回見学会	同	10号13 "	
	11月25日(月)	講習会	同	10号12 "	
	11月20日(水) 11月30日(土)	学生見学会	同	10号13 "	
	中四支部	11月1日(金)	講演会	米子市	10号15 "
	西部支部	2月23日(日)	研究発表会	福岡市	10号15 "
中部支部	11月25日(月)	土と岩の強度と変形講習会	大阪市	10号16 "	
その他	11月8日(金) ~9日(土)	第18回応用力学連合講演会	東京都	10号8 "	
		<ul style="list-style-type: none"> ■昭和43年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集 ■第2回構造用軽量骨材に関するシンポジウム講演募集 ■不等質の流れのシンポジウム ■第9回日本アイソトープ会議論文募集 ■第9回東洋レーヨン科学技術賞および研究助成候補募集 ■研究発表会論文・報文募集(北海道支部) ■地盤薬液注入工法講習会 		10号2 " 10号7 " 10号9 " 10号9 " 10号9 " 10号10 " 10号16 "	

日本学術会議第8期会員選挙立候補者の推薦

本年11月に行なわれる標記選挙の立候補者の推薦につき、理事会において協議の結果、土木学会ではつぎの3名の方を推薦することになりましたので、お知らせします。(50音順)

なお、投票締切は11月25日です。念のためお知らせします。

- | | | | | | | | |
|---------------|---|--------|------------|------|---------|----|------|
| (全国区第5部 土木工学) | } | 石原藤次郎君 | 昭和5年京都大学卒 | 工学博士 | 京都大学教授 | 専攻 | 河海工学 |
| | | 平井 敦君 | 昭和11年東京大学卒 | 工学博士 | 東京大学教授 | 専攻 | 橋梁工学 |
| (地方区第5部 土木工学) | | 板倉 忠三君 | 昭和7年北海道大学卒 | 工学博士 | 北海道大学教授 | 専攻 | 交通工学 |

昭和43年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集

昭和43年10月

社団法人 土 木 学 会

本年度土木学会賞候補の募集ならびに吉田研究奨励金候補の募集をいたします。表彰規程および下記募集要項をご参照のうえふるって推薦または応募されますようお願いいたします。ただし、土木学会賞のうちの功績賞については公募いたしません。

◎土木学会賞候補募集要項

種別	技 術 賞	論 文 賞	吉 田 賞	田 中 賞
候補対象	土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなした画期的な総合的業績、もしくは一部の業績	(論文賞) 土木学会誌、論文集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたもの (論文奨励賞) 土木学会誌、論文集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に寄与し、独創性と将来性に着目し、受賞者の年齢が原則として受賞時(44年5月末日)に満36才未満であるもの。	コンクリートおよび鉄筋コンクリート(プレストレストコンクリートを含む)ならびにこれらに関連する優秀な研究、工事等を行なったものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリートに関する学・協会等の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計、施工、考案などの報告またはそれらの要旨が登載されたものの中から選ばれる。	(論文) 橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究成果を対象とし、公刊されたものの中から選ばれる。 (作品) 橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有する物を対象とし、つぎの各グループについて選考する (1) 長大橋梁 (2) 中小橋梁 (3) その他特殊橋梁および橋梁に関連するもの
受賞候補者	個人または団体	本会会員に限る。 過去の土木賞受賞者は既受賞者として重ねて同一の賞の候補者となることはできない。共著者(共同研究者)の中に非会員、既受賞者、その他受賞候補者になることができないものが含まれていることはさしつかえないが、受賞候補者に加えることはできない。	個人または研究グループとする。 ただし、外国国籍のものは、本会会員であって、その候補対象を土木学会誌、論文集、その他土木学会の刊行物に発表した者に限る。また、原則としてすでに吉田賞を授与されたものを除く。	(論文) 個人またはその複数。 (作品) 作品自身を対象とするもので受賞候補者はない。
候補の範囲	昭和42年1月1日から昭和43年12月31日までの間にできた業績であって日本国内において実施されたものに限る。	昭和42年1月1日から、昭和43年12月31日までの間に発表されたもので、土木学会誌、論文集、その他土木学会の刊行物に登載されたものその他、他学・協会、大学、官公庁、会社などの刊行物に登載されたものを含む。 なお、同一の問題につき当該期間以前においても論文が発表されている場合には前掲に該当する論文にその過去における発表論文を加えて総合題目として候補の対象とすることもできる。		(論文) 論文賞、吉田賞に同じ (作品) 昭和42年1月1日から昭和43年12月31日までの間に完成した構造物で日本人により計画、設計あるいは施工されたものに限る。 なお、完成の時期については、原則的には普通の橋梁等では供用開始の時、その他一連の工事の一部としての橋梁等の構造物には、そのもの自身の完成したと見做される時とする。
推薦(応募)の方法	推薦者は会員、支部、土木事業に関連する学・協会、法人とする。 推薦者は別に定める推薦書、候補業績の要旨各1部を提出する。 なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。	推薦者は会員、支部その他一般とするが、会員自らの応募であってもよい。 推薦者は別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文集以外に発表されている場合は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料6部と別に定める様式による候補論文要旨1部を提出しなければならない。	推薦者は会員、支部、その他一般とする。 推薦者は別に定める様式による推薦書1部を提出する。土木学会誌、論文集以外に発表された候補論文は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料30部を提出しなければならない。	(論文) 推薦者は会員、支部、その他一般とする。 推薦者は別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文集以外に発表されている場合は、推薦書に添えて審査に必要な資料20部を提出しなければならない。 (作品) 推薦者は会員、支部、その他一般とする。 推薦者は別に定める推薦書1部を提出する。
(推薦書および関係用紙は土木学会本部または各支部に準備してありますから必ずその用紙を使用して下さい)				
審査	表彰委員会において行なう。ただし、審査の途上において推薦者またはその代理人に出席を求め説明をうけることがある。	論文賞選考委員会において行なう。なお、必要あるときはさらに資料30部の追加提出を求められることがある。	吉田賞選考委員会において行なう。	田中賞選考委員会において行なう。なお、必要あるときはさらに関係資料の提出を求められることがある。
表彰	第55回通常総会において行ない、賞状、賞牌を贈る。	第55回通常総会において行ない、賞状、賞牌、賞金を贈る。	第55回通常総会において行ない、賞状、賞牌、賞金を贈る。	第55回通常総会において表彰する。
締切日	昭和44年1月20日			
提出先	東京都新宿区四谷1丁目 土木学会表彰委員会	土木学会論文賞選考委員会	土木学会吉田賞選考委員会	土木学会田中賞選考委員会

土木学会表彰規程

(総 則)

第1条 土木学会第34条による表彰はこの規程による。

(賞の種類)

第2条 表彰は次の土木学会賞(総称)を授与して行なう。

1. 功 績 賞
2. 技 術 賞
3. 論 文 賞
4. 吉 田 賞
5. 田 中 賞

(功績賞)

第3条 功績賞は土木学会の会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められるものに授与する。

(技術賞)

第4条 技術賞は土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められた画期的な業績に授与する。

(論文賞)

第5条 論文賞は本会会員であって、土木学会誌、論文集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められた画期的な業績に授与する。

- (2) 論文奨励賞は本会会員であって、土木学会誌、論文集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術に関する進歩発展に寄与し、獨創性と将来性に富むものと認められ、受賞者の年齢が原則として受賞時に満36才未満であるものに授与する。

(吉田賞)

第6条 吉田賞はコンクリートおよび鉄筋コンクリートならびにこれらに関連する優秀な研究、工事等を行なったと認められるものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリートおよび鉄筋コンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計・施工・考案等の報告またはそれらの要旨が掲載されたものの中から選ばれる。

(田中賞)

第7条 田中賞は次の論文ならびに作品に授与する。

(1) 論 文

橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究成果を対象とし、公刊されたものの中から選ばれる。

(2) 作 品

橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有すると認められる物を対象とし、長大橋梁、中小橋梁、その特殊橋梁および橋梁に関連あるもののグループ別に選ばれる。

(委員会)

第8条 土木学会賞を審議決定するため次の委員会をおく。

1. 表 彰 委 員 会
2. 論 文 賞 選 考 委 員 会
3. 吉 田 賞 選 考 委 員 会
4. 田 中 賞 選 考 委 員 会

(2) 表彰委員会は功績賞および技術賞の受賞候補の選考をなし、論文賞、吉田賞および田中賞選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行ない、土木学会賞受賞候補者を決定する。

(3) 論文賞選考委員会は論文賞候補の選考を行なう。

(4) 吉田賞選考委員会は吉田賞候補の選考を行なう。

(5) 田中賞選考委員会は田中賞候補の選考を行なう。

(6) 前記各委員会の構成、運営、その他については別に内規で定める。

(表彰の時期、方法)

第9条 表彰は原則として毎年1回通常総会において賞牌、賞状等を授与して行なう。

◎吉田研究奨励金候補者の募集

1. 候補対象

コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートならびにこれらに関連する研究に従事するもので、特に独創性と将来性に富むと認められたもの。ただし、授与されるものが、昭和8年6月1日以降出生のものに限り、かつ、原則として同一研究計画に対してすでに吉田研究奨励金を授与されたものを除く。

2. 募集の題目

(1) 要望課題

- ① 鉄筋コンクリート部材の極限設計に関する研究
- ② 高張力異形鉄筋の有効な使用方法に関する研究
- ③ 軽量コンクリートに関する研究
- ④ 砕石コンクリートに関する研究

(2) 自由課題

(注) 来年度の要望課題としては②と④を「プレキャストコンクリート部材の接合に関する研究」とコンクリート内の微細なひびわれに関する研究に変更する。なお、これ以外に必要と思われる課題を追加することもある。

3. 募集の方法

日本に国籍を有する個人または研究グループの応募による。

4. 研究成果の報告

研究成果は文書により吉田賞選考委員会に提出するほか、昭和45年10月中旬施行の第25回年次学術講演会において吉田研究奨励金を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。

5. 応募の方法

一定の様式による研究計画書1部を提出する。

(計画書の用紙は土木学会本部および各支部に準備してありますから、必ずその用紙を使用して下さい)

6. 審査

吉田賞選考委員会において行なう。

7. 締切期日

昭和44年1月20日

秋のエクスカーション

◀ 11月14日(木)～15日(金) ▶

土木学会恒例の秋のエクスカーションとして、見学は水資源開発関係の工事を主とし、鹿島港、成田国際空港、国鉄武蔵野線、鹿島線を加え、宿泊地は水郷の町牛堀を選びました。会員諸氏のご参加を、お勧めいたします。

記

1. 定 員：50名
2. 参 加 費：4000円(昼食および宿泊代を含む)
3. 集 合：11月14日(木)9.00 土木学会
4. 見学コース：土木学会—新宿副都心—朝霞浄水場—秋ヶ瀬取水堰—国鉄武蔵野線—牛堀(泊)—鹿島港—国鉄鹿島線—利根川河口堰—安食—成田国際空港—大和田機場—船橋駅前
5. 解 散：11月15日(金)17.30 総武線船橋駅前
6. 申 込 み：勤務先、氏名、連絡先を明記のうえ参加費を添えて 土木学会総務課(TEL 351-4133) までお申込み下さい。満員になり次第締切りますから早目にお申込み下さい。

第 15 回海岸工学講演会

◀ 12 月 5 日 (木)~6 日 (金) ▶

第 15 回海岸工学講演会は、つぎの日程により福岡市において開催いたしますので多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 場 所: 福岡市民会館 (福岡市天神 5 丁目 1 番 23 号・電話 福岡 76-6567)
国鉄博多駅下車, 市内電車で築港回り, 市民会館前下車
2. 講 演 会: 1968 年 12 月 5 日 (木)~6 日 (金)
3. 講 演 題 目:

○印は講演者

第 1 日: 12 月 5 日 (木) 午前 第 1 会場

- | | | |
|-------------|--------------------------------|------------------------------|
| 9.00~9.05 | 開会あいさつ | 土木学会海岸工学委員会委員長 本間 仁 |
| 9.05~9.20 | (1) 風波におよぼす油膜の効果に関する実験 | 東京工業大学 日野 幹雄・○片岡 真二・金子大二郎 |
| 9.20~9.35 | (2) 有限振幅波の Shoaling について(2) | 京都大学防災研究所 岩垣 雄一・○酒井 哲郎 |
| 9.35~9.50 | (3) 表面波による振動流境界層に関する実験的研究 | 東京大学 堀川 清司・○渡辺 晃 |
| 9.50~10.05 | 討 議 (1)~(3) | |
| 10.05~10.15 | 休 憩 | |
| 10.15~10.30 | (4) 浅波重複波による質量輸送 | 京都大学防災研究所 ○野田 英明・川嶋 康宏 |
| 10.30~10.45 | (5) 砂波による水理特性 | 農林省農業土木試験場 中村 充・○白石 英彦・佐々木泰雄 |
| 10.45~11.00 | (6) 破波帯の波の研究 (1) (観測法および判別) | 九州大学 ○井島 武士・松尾 隆彦 |
| 11.00~11.15 | (7) 海岸構造物不連続部の波高分布について (第 3 報) | 徳島大学 ○三井 宏・日本建設コンサルタント 川崎 俊太 |
| 11.15~11.30 | (8) 造波水路における波浪実験の二, 三の問題点について | 運輸省港湾技術研究所 合田 良実 |
| 11.30~11.55 | 討 議 (4)~(8) | |
| 11.55~13.30 | 昼 食・休 憩 | |

12 月 5 日 (木) 午後 第 1 会場

- | | | |
|-------------|--------------------------------------|-----------------------------|
| 13.30~13.45 | (9) 博多湾の風と波 (低風速時の一例) | 九州大学応用力学研究所 光易 恒 |
| 13.45~14.00 | (10) 中予海岸における波の推算と問題点 | 建設省四国地方建設局 浜口 博司 |
| 14.00~14.15 | (11) 大湾海岸における波浪推算の一例 | 京都大学防災研究所 ○柿沼 忠男・石田 昭・門司 剛至 |
| 14.15~14.30 | (12) 記録にもとづく海岸波浪の非線型性の解析 | 京都大学防災研究所 柿沼 忠男・○石田 昭・門司 剛至 |
| 14.30~14.45 | (13) 防波堤の設計波浪に関する二, 三の考察 | 運輸省第 4 港湾建設局 尾崎 重雄・○川上 善久 |
| 14.45~15.10 | 討 議 (9)~(13) | |
| 15.10~15.20 | 休 憩 | |
| 15.20~15.35 | (14) ピアソン型分布による海の波 | 日本大学 久宝 雅史・○竹沢 三雄・天竺 智雄 |
| 15.35~15.50 | (15) 不規則な波の入射および反射エネルギースペクトルの測定法について | 電力中央研究所 鹿島 遼一 |
| 15.50~16.05 | (16) 波による球の振動 | 東京工業大学 椎貝 博美・○河野 二夫 |
| 16.05~16.20 | (17) パイルに働く波力のスペクトルの理論 (流れと波の共存する場合) | 東京工業大学 日野 幹雄 |
| 16.20~16.35 | (18) 低基混成堤に働く波圧 | 大阪市立大学 ○永井荘七郎・大坪 崇彦 |
| 16.35~17.00 | 討 議 (14)~(18) | |

12 月 5 日 (木) 午前 第 2 会場

- | | | |
|-------------|--------------------------|------------------------------------|
| 10.15~10.30 | (19) 波と流れによる砂の移動について | 農林省農業土木試験場 ○中村 充・白石 英彦・佐々木泰雄・伊藤三甲雄 |
| 10.30~10.45 | (20) 波による波連のスペクトルについての実験 | 東京工業大学 日野 幹雄・福岡 捷二・○古沢 忠 |
| 10.45~11.00 | (21) 沿岸流速に関する二, 三の考察 | 東京大学 堀川 清司・○佐々木民雄 |
| 11.00~11.15 | (22) 堤防前面の海浜変形に関する一考察 | 名古屋工業大学 ○細井 正延・大阪市役所 荒川 忠昭 |
| 11.15~11.30 | (23) 海岸侵蝕と海水準変動 | KK日本港湾コンサルタント 高 隆二 |
| 11.30~11.55 | 討 議 (19)~(23) | |
| 11.55~13.30 | 昼 食・休 憩 | |

12 月 5 日 (木) 午後 第 2 会場

- | | | |
|-------------|--|-------------------------------|
| 13.30~13.45 | (24) 海蝕崖の後退に関する実験的研究 | 東京大学 堀川 清司・○砂村 健夫 |
| 13.45~14.00 | (25) 皆生海岸の侵蝕について | 建設省中国地方建設局 ○馬場 和秋・河村 信武・成石 治郎 |
| 14.00~14.15 | (26) 鹿島港防波堤延長工事に伴う海底地形の変化について | 運輸省港湾技術研究所 佐藤 昭二・○田中 則男・入江 功 |
| 14.15~14.30 | (27) 離岸堤工法について | 建設省河川局 豊島 修 |
| 14.30~14.45 | (28) 海中浮泥の分布と干潟への影響について | 農林省農業土木試験場 満田 雅男 |
| 14.45~15.10 | 討 議 (24)~(28) | |
| 15.10~15.00 | 休 憩 | |
| 15.20~15.35 | (29) 密度流の問題 (3) | 運輸省港湾技術研究所 浜田 徳一 |
| 15.35~15.50 | (30) 河口における塩水と淡水の混合 | 北海道大学 福島 久雄・八鍬 功・○高橋 将・大谷 守正 |
| 15.50~16.05 | (31) 河口の流れの構造 | 北海道大学 ○柏村 正和・吉田 静男 |
| 16.05~16.20 | (32) 河口閉塞にともなう河道内水位の変化について (河口閉塞機構に関する基礎的研究 第 3 報) | 大阪大学 榎木 亨 |
| 16.20~16.35 | (33) 深層取水の流れへの考察(II) | 日本原子力発電KK ○大西 外明・東京工業大学 日野 幹雄 |
| 16.35~17.00 | 討 議 (29)~(33) | |

第 2 日 : 12 月 6 日 (金) 午前 第 1 会場

- 9.00~9.15 (34) 有限振幅の定常長波 中央大学 首藤 伸夫
 9.15~9.30 (35) 異常潮位に関する統計的考察 北海道開発局 村木 義男・○鎌田 新悦
 9.30~9.45 (36) 河川潮汐の研究 (第 1 報) 東海大学 宇野木早苗
 9.45~10.00 (37) L 字形湾の振動特性について(II) 東京大学 堀川 清司・中央大学 首藤 伸夫・東京大学 ○西村 仁嗣
 10.00~10.20 討 議 (34)~(37)
 10.20~10.30 休 憩
 10.30~10.45 (38) 1968 年十勝沖地震による三陸沿岸の津波 運輸省第 2 港湾建設局 堀口 孝男・○横田 基紀・運輸省港湾技術研究所 高橋 智晴・谷本 勝利
 10.45~11.00 (39) 海岸における鋼構造物の防食について (第 2 報) 八幡製鉄KK 向江勝公雄・沢村 稔・谷 秀夫・○前田 成亮
 11.00~11.15 (40) 不規則波に対する護岸の期待越波流量について 運輸省港湾技術研究所 合田 良実・○竹田 英章
 11.15~11.30 (41) 海岸堤防の越波の飛散 (水平) 分布について (一法面勾配の影響) 中部工業大学 高田 彰
 11.30~11.50 討 議 (38)~(41)
 11.50~13.30 昼 食・休 憩

12 月 6 日 (金) 午後 第 1 会場

- 13.30~13.45 (42) 海岸堤防の越波について 建設省土木研究所 富永 正照・○佐久間 義
 13.45~14.00 (43) 海岸堤防の越波実験における縮尺効果について 京都大学防災研究所 岩垣 雄一・○井上 雅夫・金田 孝之
 14.00~14.15 (44) 浮防波堤の模型実験 日本大学 久宝 雅史・○大橋 一彦・牧野 勝典
 14.15~14.30 (45) 鋼管防波堤とその基礎洗掘 中央大学 林 泰造・○服部昌太郎
 14.30~14.50 討 議 (42)~(45)
 14.50~15.00 休 憩
 15.00~16.00 第 11 回国際海岸工学会議報告
 16.00~16.05 閉会あいさつ 本間 仁

12 月 6 日 (金) 午前 第 2 会場

- 9.00~9.15 (46) 工業用水の取放水問題 電力中央研究所 ○和田 明・片野 尚明
 9.15~9.30 (47) 海岸に開口する水力発電所放水路への海水侵入について 電力中央研究所 中村 宏
 9.30~9.45 (48) 淡水湖における洪水層中への塩分鉛直拡散 京都大学 南 勲
 9.45~10.00 (49) 火力発電所より放出された温噴流の湾内拡散について 中央大学 ○林 泰造・首藤 伸夫・川上 克巳
 10.00~10.20 討 議 (46)~(49)
 10.20~10.30 休 憩
 10.30~10.45 (50) 湾内における物質の拡散 (東京湾の場合) 運輸省第 2 港湾建設局 ○堀口 孝男・石塚 修二・横田 基紀
 10.45~11.00 (51) 水理模型実験による腐水拡散の研究(1) 通産省工業技術院資源技術試験所 江村 富男・○鬼塚 正光・深尾 浩・山口 文男
 11.00~11.15 (52) Water Curtain による波浪の減衰に関する実験的研究 (鉛直上向噴流列の応用研究) 大阪大学 室田 明・○村岡 浩爾・運輸省第 4 港湾建設局 中山 茂雄
 11.15~11.30 (53) 潜堤による風波の減衰機構について 東京大学 堀川 清司・電力中央研究所 ○小森 修蔵
 11.30~11.50 討 議 (50)~(53)
 11.50~13.30 昼 食・休 憩

12 月 6 日 (金) 午後 第 2 会場

- 13.30~13.45 (54) 透過性構造物の減勢機構に関する実験的研究 大阪工業大学 ○久保 弘一・井田 保夫
 13.45~14.00 (55) 水路を遡上する波の減勢工に関する二、三の考察 電力中央研究所 千秋 信一・藤本 稔美・○島田 真行
 14.00~14.15 (56) 合掌ブロックの特性について 大阪市立大学 永井莊七郎・○大坪 崇彦・遠藤 正男
 14.15~14.30 (57) 二重カーテン壁消波工の消波効果について 農林省農業土木試験場 加藤 重一・○乃万 俊文
 14.30~14.50 討 議 (54)~(57)

4. 見学会 : 1968 年 12 月 7 日 (土)

- (1) コース : A コース (博多港めぐり) : 9.00 福岡市民会館前集合・出発一海の中道一志賀の島一博多駅到着, 解散 12.00
 B コース (唐津, 名護屋めぐり) : 9.00 福岡市民会館前集合・出発一唐津一名護屋一波戸岬一博多駅到着,
 解散 16.00
 (2) 参加費 : A コース : 400 円 (バス代のみ) B コース : 800 円 (バス代, 昼食代)
 (3) 定員 : 各コース 50 名
 (4) 申込方法 : コース名, 氏名, 勤務先, 連絡先, 明記のうえ, 参加費を添えて 11 月 5 日までに申込み下さい。定員があり
 ますので参加多数の場合は申込受付順といたしますのでご了承下さい。
 (5) 申 込 先 : 郵便番号 160 : 東京都新宿区四谷 1 丁目 土木学会海岸工学講演会係

第 13 回水理講演会講演募集

◀ 2 月 7 日 (金) ~ 8 日 (土) ▶

第 13 回水理講演会を下記により開催いたします。講演ご希望の方はふるってご応募下さい。

1. 期 日 : 1969 年 2 月 7 日 (金) ~ 8 日 (土)
 2. 会 場 : 発明会館 (東京都港区芝西久保明舟町 17 番地・地下鉄虎の門下車 3 分)

3. 課 題:

- i) 水資源系におけるシミュレーションの手法 (流量配分, 河道計画, 洪水調節などの問題)
- ii) 浸透層内の流れ (非ダルシー流, 海岸地下水, 水理構造物周辺の流れを含む)
- iii) その他

- 4. 申込み方法・その他: 10月30日までに講演題目, 講演者氏名 (連名の場合は講演者に○印をつける), 勤務先を明記し, 土木学会水理委員会あてお申し込み下さい。折り返し, 原稿用紙をお送りいたします。
- 5. 講演原稿締切: 12月5日 (厳守)

第2回構造用軽量骨材に関するシンポジウム講演募集

土木学会コンクリート委員会では, ここ数年來各製造会社よりの委託により構造用軽量骨材の試験研究を行なって参りましたが, その試験結果を中心に, さらに一般の研究者の研究結果も加えて下記により標記シンポジウムを開催することになりました。現在コンクリート用新材料として脚光を浴びている人工軽量骨材の使用法を中心に活発な論議を行なうことは斯界発展のため有意義なことと存じます。ふるってご応募下さるようご案内いたします。

- 1. 期 日: 1969年2月下旬
- 2. 場 所: 東京
- 3. 参加費: 未定
- 4. 講演概要: 実費頒布
- 5. 講演申込: 講演希望者は講演題目, 講演者名, 勤務先, 連絡先を明記のうえ, 400字程度の内容梗概を付けて, 11月10日までに土木学会コンクリート委員会にお申込み下さい。採用のうえは, 1月10日までに所定の原稿用紙 (全国大会と同じもの) 2枚程度の講演概要の提出をお願いいたします。なお, 採否はコンクリート委員会にご一任下さい。

第3回土木計画学シンポジウム

◀ 1月28日 (火) ~ 29日 (水) ▶

土木計画学研究委員会はすでにシンポジウムを2回, 講習会を1回開催し, 土木計画学に関する研究をすすめて参りましたが, 今般第1回および第2回のシンポジウムの内容を総括的にとらえ, 今後の発展を計るべく, 「土木計画学における計量化の考えかたと問題点」を中心に第3回土木計画学シンポジウムを開催することとなりました。会員各位のご参加を希望します。

- 1. 期 日: 1969年1月28日 (火) ~ 29日 (水)
- 2. 会 場: 土木学会図書館講堂 / 東京都新宿区四谷1丁目 / 電話 03-351-5138 / 交通・国電四谷駅下車2分, 地下鉄四谷駅下車4分
- 3. 課 題: 土木計画における計量化の考えかたと問題点
- 4. 内 容: [第1部] 土木計画の考えかた——第1回および第2回土木計画学シンポジウムの整理と検討
司会 八十島義之助 (東大) / 発表 新谷洋二 (東大) / 討論 委員会幹事
- [第2部] 土木計画における計量化の考えかたと問題点
(第1日) 司会 内田一郎 (九大) / 山根 孟 (建設省) / 枝村俊郎 (神戸大)
小池 力 (運輸省) / 鈴木忠義 (東工大) / 菊池 宏 (国鉄)
(第2日) 司会 岩佐義朗 (京大) / 島田静雄 (名大) / 末石富太郎 (京大)
伊藤 博 (経企庁)
- [第3部] 特別講演 (タイトル・講師 未定)
- [第4部] 総括討論: 小川博三 (北大) / 八十島義之助 (東大) / 内田一郎 (九大)
岩佐義朗 (京大)
- [第5部] 総括討論のまとめ 小川博三 (北大)
開会あいさつ 鈴木雅次 / 閉会あいさつ 米谷栄二
- 5. 定 員: 150名
- 6. 参加費: 会員 1800円, 会員外 2000円
- 7. 申込方法: 希望者は ①氏名, ②勤務先, ③連絡先, ④会員区分を明記, 参加費同封のうえ現金書留便でお申込み下さい。
- 8. 申 込 先: 土木学会事務局編集課 (東京都新宿区四谷1丁目・郵便番号 160)
- 9. 1次締切 (テキスト先渡): 1968年11月30日
2次締切 (テキスト会場渡): 1969年1月10日

第5回衛生工学研究討論会論文募集

恒例の標記研究討論会については、本年から全国大会が10月中旬に開催されるため、下記によりくり下げて実施いたします。本研究討論会も第1回を開催以来5年をむかえ、ますます盛況になりつつありますが、論文提出希望者は斯界発展のためふるってご応募下さるようご案内いたします。

1. 主 催：土木学会衛生工学委員会
2. 期 日：1969年1月31日(金)、2月1日(土)2の日間
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂
4. 論文内容：本年度は特別に課題を決めず自由課題とします。
5. 申込方法：11月25日までにB5判用紙に論文題目、研究者氏名(共同研究の場合は講演者に○印を付けて下さい)、勤務先、連絡先を明記し、講演概要(800字以内)を付して土木学会衛生工学委員会宛お申込み下さい。
6. 採 否：論文の採否は衛生工学委員会にご一任下さい。なお、採用決定のうちは改めて講演原稿の提出方をお願い致します。また、応募件数によっては紙上発表のみになる論文があることを前もってお断りいたします。

第5回岩盤力学に関するシンポジウム講演募集

土木学会岩盤力学委員会では、下記により第5回岩盤力学に関するシンポジウムを開催いたしますので、講演ご希望の方はふるってご応募下さい。

1. 期 日：1969年2月27日(木)、28日(金)
 2. 場 所：土木学会土木図書館講堂
 3. 講演申込要項：
 - (1) 内 容：岩盤力学に関する理論、実験、測定等の研究(ダム、トンネル、爆破等への応用例も含む)
 - (2) 講演申込締切：1968年11月25日(月)
 - (3) 申 込 先：東京都新宿区四谷1丁目 土木学会岩盤力学委員会
 - (4) 申 込 要 領：講演題目、講演者名、勤務先、連絡先を明記のうえ、400字程度の内容梗概を付けてお申込み下さい。
 - (5) 講演原稿締切：1968年12月27日(金)
- 注：1. 講演時間は、1件討議を含め30分程度を予定しております。
 2. 講演の採否その他については、岩盤力学委員会にご一任下さい。
 3. 講演者には、当学会所定の様式にしたがって、講演原稿をご提出していただきます。

第18回応用力学連合講演会

◀ 11月8日(金)～9日(土) ▶

第18回応用力学連合講演会が、日本学術会議力学研究連絡委員会および土木学会ほか7学会の共催によって開催されます。多数ご参加下さいますようご案内いたします。日程・その他詳細は前号でお知らせしましたが、詳細プログラムご希望の方は土木学会総務課へお申込み下さい。

1. 場 所：東京都立大学 目黒新校舎B棟(東京都目黒区八雲 1-1-1)
2. テ ー マ：(A) 応用力学における統計的方法 (B) 不安定現象 (C) 境界層と拡散 (D) 疲労
3. 日 程：11月8日(金)～9日(土)
4. そ の 他：詳細は学会誌9月号をご覧ください。

不等質の流れのシンポジウム

◀ 1月25日(土) 10.00~ ▶

1. 開催日：1969年1月25日(土) 10.00~16.40
2. 共 催：(順不同) 日本学術会議水力学 水理学研究連絡委員会・化学工学協会・造船学会・土木学会・日本海洋学会
日本機械学会・日本気象学会・日本建築学会・農業土木学会
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目, 外濠公園入口)
4. 内 容：題目数：8, 講演時間：40分(25分+討論15分)

10.00~10.10	開会あいさつ	
10.10~10.50	(1) 河口密度流の2,3の性質について	運輸省港湾技術研究所 工博 浜田 徳一
10.50~11.30	(2) 淡水水界面における乱れ拡散に関する研究	東北大学工学部 工博 岩崎 敏夫
11.30~12.10	(3) 流砂を伴う開水路の流れ	東京工業大学工学部 工博 吉川 秀夫
13.00~13.40	(4) 泥水の管抵抗について	東京教育大学農学部 農博 岸上 定男
13.40~14.20	(5) 流体機械内の気泡混合格	名古屋大学工学部 工博 村上 光清
14.20~15.00	(6) 流体機械におけるスーパーキャピテーション	東北大学高速力学研究所 工博 齊藤 清一
15.10~15.50	(7) 不均一流れにおける船用プロペラのキャピテーション	運輸省船舶技術研究所 伊藤 達郎
15.50~16.30	(8) 衝撃波を伴う不等質の流れ	京都大学工学部 工博 神元 五郎
16.30~16.40	閉会あいさつ	

第9回日本アイソトープ会議論文募集

1. 期 日：1969年5月13日(火)~15日(木)
2. 場 所：日本都市センター(東京都千代田区平河町)
3. 主 催：日本原子力産業会議ほか
4. 応募論文の課題
 - A. 研究発表：アイソトープならびに放射線を利用する場合の各専門領域に共通する物理, 化学, 安全取扱い, 測定, 廃棄物処理, 遮蔽および施設に関する最新の基礎となる研究あるいは技術に重点をおいたもの。
 - B. シンポジウム：アイソトープならびに放射線を利用した研究の成果を主体としたものでつぎのテーマに合致するもの。
 - (1) アイソトープ・放射線による蛍光X線分析
 - (2) フォッショントラックとその応用(一部指名)
 - (3) アクチバパルトレーサーの利用
 - (4) 資源開発へのアイソトープの利用(一部指名)
 - (5) 放射線化学における短寿命活性種
 - (6) 放射線重合
 - (7) 新しいアイソトープ医療機器
 - (8) 核医学における電子計算機の応用と問題点
 - (9) アイソトープを利用した *in vitro testing*
 - (10) 作物栄養生理研究におけるアイソトープの利用
 - (11) ライフサイエンスにおける新しいアイソトープの利用
5. 論文申込締切期日：1968年11月30日
6. 申込先その他：応募論文の申込方法, その他詳細については下記宛お問合せ下さい。
 東京都港区新橋1の1の13(郵便番号105)
 日本原子力産業会議放射線開発課 電話 03(591)6121~4(代表)

第9回東洋レーヨン科学技術賞および研究助成候補募集について

標記の件に関して照会がありましたので, ご希望の方は11月20日までに土木学会へご連絡下さい

科学技術賞

1. 候補者の対象：つぎに該当するもの：(1) 学術上の業績が顕著なもの, (2) 学術上重要な発見をしたもの, (3) 重要な発明をして, その効果が大きいもの, (4) 技術上重要な問題を解決して技術界に貢献するところが大きいもの

2. 科学技術賞：1件につき本賞：金メダル，副賞：250万円（2件以内の予定）
3. 候補者推薦件数：1学（協）会から2件以内

研究助成

1. 候補者の対象：科学技術の基礎的な研究に従事し，その研究成果がわが国科学技術の進歩，発展に対し貢献するところが大きいと考えられる研究を行なっている研究者，またはそのグループ
2. 研究助成金：総額1億円以内，1件1000万円程度とします
ただし，たとえば，数百万円の装置を整えることにより重要な研究のあい路が取り除かれるような場合には，この額にとらわれる必要はありません
3. 候補者推薦件数：1学（協）会から3件以内

北海道支部行事案内（郵便番号 060 札幌市南1条西2丁目 勸銀ビル5階 電話 (0122)25-7038）

研究発表会論文・報文募集

上記の原稿をつぎの要領で募集しております。ふるってご応募下さい。

1. 発表：1969年2月28日札幌市民会館で口頭発表するほか事前に「研究発表会論文集第25号」として本印刷のうえ刊行し本道会員・全国主要研究機関に配付する。
2. 内容：土木工学，土木技術，工事報文など
3. 応募方法：1) 申込先・支部事務局へ文書または電話で
2) 原稿要領と原稿用紙・お申込み次第急送する
4. 原稿締切：1968年11月20日必着
5. 支部奨励賞：応募論文について選考のうえ支部奨励賞（賞金，メダル，賞状）を授与される。

関東支部行事案内（郵便番号 160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会総務課内）
電話 (03) 351-4133

(1) 「新しい橋梁施工技術」講習会 ◀ 11月5日（火）9.20～16.10 ▶

最近話題になっている橋梁の新しい施工技術として，大支間吊橋の建設のための2種類のケーブル架設工法，都市の美観に適合したPC高架橋の建設のためにドイツから導入したビルツ工法および長支間箱桁橋において広く採用される気運にある鋼床版の現場溶接施工法の4題をとりあげ，講習会を開催いたします。関係技術者多数のご参加をのぞみます。

1. 日 時：1968年11月5日（火）9.20～16.10
2. 場 所：安田生命ホール（東京都新宿区角筈 2-74 電話 03-342-6705）
3. 定 員：400名
4. 参加費：1500円（テキスト代を含む）
5. プログラム：
9.20～9.30 あいさつ 土木学会関東支部長
9.30～10.50 ① 平行線ケーブル工法による吊橋架設 八幡製鉄（株）建材開発室 安井 三雄
11.00～12.20 ② ビルツ工法による高架橋の施工 鹿島建設（株）土木設計部PC課長 吉田 正吾
13.20～14.40 ③ パラレルワイヤーストランドによる吊橋架設 富士製鉄（株）道路橋梁技術課長 田辺 末信・富士製鉄（株）長大橋開発班長 東田 信安
14.50～16.10 ④ 鋼床版橋の現場溶接施工 首都高速道路公団工務部第二設計課長 中村 正平
6. 申 込：勤務先，氏名，連絡先を明記のうえ参加費を添えて，土木学会関東支部あてお申込み下さい（現金書留が好都合です）。満員になり次第締切りますから，早目にお申込み下さい。

(2) 「シールド工法と沈埋工法の施工上の問題点」講習会

◀ 11月13日(水)~14日(木) ▶

シールド工法は、最近、都市内において路面交通の支障を少なくしてトンネル工事を進めるといった時代の要請も加味されて、地下鉄道、上下水道、電力通信用洞道等の建設に急速に採用されるようになったが、すでに初期の摸索の時代を過ぎ、現在は過去の実施例に対する反省と、将来の飛躍のための技術の蓄積の時期にある。今回は、主として現場における貴重な体験から生まれたデータ、問題点、反省点などについて各分野の専門の方々が発見します。

一方、沈埋トンネルは、外国では500m以上のものがすでに10本あり、サンフランシスコ湾においては長さ5800mの鉄道トンネルを建設中である。わが国では、小規模のものは既存するが、今回東京湾岸環状道路および東京外環状京葉線(鉄道)のうち東京港付近において行なわれることになった大がかりな沈埋工法についてその全貌をそれぞれの専門の方から解説します。

施工にかぎらず関係技術者の多数ご参加をのぞみます。

1. 日 時: 1968年11月13日(水) 9.10~16.00, 14日(木) 9.20~16.00
2. 場 所: 安田生命ホール(東京都新宿区角管 2-74 電話 03-342-6705)
3. 定 員: 400名
4. 参加費: 2500円(テキスト代を含む)
5. プログラム:

(第1日)

9.10~9.20 あいさつ

- 9.20~10.00 ① 最近のわが国のシールド工法の傾向とソ連のシールド工法の現状
- 10.10~11.20 ② 「機械化シールド施工上の問題点」川崎市導水路工事について
- 11.30~12.30 ③ 「機械化シールド施工上の問題点」東電地中電線路工事について
- 13.30~14.30 ④ 特殊条件下の下水道シールド工事について
- 14.40~16.00 ⑤ 地下鉄第9号線外神田付近砂地盤中のシールド工法について

- | | |
|--------------------|--------|
| 土木学会関東支部長 | |
| 帝都高速度交通営団建設本部設計部長 | 西嶋 國造 |
| 川崎市水道局工務部長 | 坂根 稔一郎 |
| 東京電力(株)工務部地中線課 | 吉川 新吉 |
| 東京都下水道局建設部設計第一課長 | 松岡 正次 |
| 帝都高速度交通営団9号線第4工事区長 | 塚田 章 |

(第2日)

9.20~10.10 ⑥ 東海道線、総武線線増工事におけるシールド工法について

- | | |
|-----------------|-------|
| 国鉄東京第一工務局線増第一課長 | 山口 良雄 |
| 地下鉄線課長 | 字野 浩彰 |

- 10.50~12.10 ⑦ 地下鉄第1号線二本榎におけるシールド駅の築造について 東京都交通局高速電車建設本部建設部工務部長 駒田 義雄
 - 13.10~14.30 ⑧ 「沈埋工法における施工上の問題点」東京湾岸環状道路について 建設省関東地建首都道路調査出張所長 布施 洋一
 - 14.40~16.00 ⑨ 「沈埋工法における施工上の問題点」東京外環状京葉線について 日本鉄道建設公団東京支社環状線第二部長 大平 拓也
6. 申 込: 勤務先、氏名、連絡先を明記のうえ参加費を添えて、土木学会関東支部あてお申込み下さい。(現金書留が好都合です)。満員になり次第締切りますから、早目にお申込み下さい。

関西支部行事案内 (郵便番号 537 大阪市東成区中道元町1丁目149番地)
(電話 大阪 (06) 981-2510 振替口座 大阪 82599 番)

(1) 近畿開発と大型土木プロジェクトに関する講習会

◀ 11月15日(金) ▶

1. 期 日: 1968年11月15日(金)
2. 場 所: 大阪科学技術センター 8階大ホール 電話 大阪 (06) 443-5321
大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄3号線信濃橋下車北へ150m 靱公園北東角)
3. 題目と講師:

- | | |
|-------------|----------------|
| 9.30~10.30 | ① 国鉄新幹線の地域経済効果 |
| 10.30~11.30 | ② 琵琶湖総合開発の問題点 |
| 11.30~12.00 | 質疑応答 |
| 13.00~14.00 | ③ 瀬戸内海開発と港湾計画 |
| 14.00~15.00 | ④ 原子力発電と近畿開発 |
| 15.00~16.00 | ⑤ 万国博と関連事業 |
| 16.00~17.00 | 質疑応答 |

- | | |
|----------------|-------|
| 土木学会関西支部長 | 米谷 栄二 |
| 京都大学教授工学部 工博 | 天野 光三 |
| 近畿地建琵琶湖工事事務所長 | 金屋敏忠義 |
| 第三港湾建設局企画課長 | 中村 竜二 |
| 関西電力(株)建設部次長 | 大野 大明 |
| 大阪府万国博協局計画調整課長 | 矢嶋 哲男 |

4. 定 員: 300名(先着順)
5. 参加費: 会費 500円(テキスト代を含む)

ただし講習会当日は800円となりますので期限内に前納して下さい。非会員 800円(テキスト代を含む)

6. 申込期限：1968年10月31日(木)
 7. 申込方法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および会員の種別を明記(様式随意)し、上記参加費を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。参加証のない人は入場をお断りします。
 (注)都合により講師の順序に変更があるかも知れませんのでご了承下さい。

(2) 若い会員懇親パーティ(第1回)

◀ 11月15日(金) ▶

若い会員相互の親睦をはかりたいと存じますので、多数ご参加のうえ、自由なご発言をお待ち申し上げます。

1. 日 時：1968年11月15日(金)17時よりの予定(大型土木プロジェクト講習会終了後)
 2. 場 所：大阪科学技術センター 8階小ホール 電話 大阪(06)443-5321
 大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄3号線信濃橋下車北へ150m 靱公園北東角)
 3. 参加者資格：35才未満の土木学会会員
 4. 定 員：50名(先着順)
 5. 参加費：無料
 6. 申込期限：1968年10月31日(木)
 7. 申込方法：参加希望者は勤務先、連絡先および氏名を明記(様式随意)して土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加証をお送りします。

(3) 土と岩の強度と変形 — その基礎設計への適用に関する講習会 ◀ 11月25日(月) ▶

共催：日本材料学会・同関西支部

協賛：土木学会関西支部・土質工学会関西支部、日本建築学会近畿支部

1. 期 日：1968年11月25日(月)
 2. 場 所：大阪科学技術センター4階401号室 電話 大阪(06)443-5321
 大阪市西区靱1丁目118番地(地下鉄3号線信濃橋下車北へ150m 靱公園北東角)
 3. 題目と講師：
 10.00~11.00 ① 土と岩の力学概説 京大工 赤井浩一
 11.00~12.00 ② 土の強度と安定解析例 港湾技研 中瀬明男
 13.00~14.00 ③ 土のレオロジーの基礎設計 京大防災研 柴田徹
 14.00~15.00 ④ 岩石および岩盤の強度と変形 神大工 桜井春輔
 15.00~16.00 ⑤ 有限要素法と基礎設計 名大工 川本脩万
 16.00~16.30 質疑応答
 4. 聴講料：会員(協賛学会員)1500円 非会員2000円 学生1000円(いずれも教材1部含む)
 教材のみご希望の方は1部1000円にて頒布いたします。ただし発送は講習会終了後
 5. 定 員：150名(締切期日前でも定員に達すれば、申込みを打ち切ります)。
 6. 申込締切：11月15日(金)(なるべく早目にお申込みください)。
 7. 申込方法：下記申込書にご記入のうえ、聴講料を添えてお申込みください。
 8. 申 込 先：日本材料学会講習会係 京都市左京区吉田泉殿町1の101
 電(075)761-5321 振替口座 京都 26625 番

土と岩の強度と変形—その基礎設計への適用に関する講習会申込様式

所 属			
氏 名		会員資格	学 正 非
送 金 内 容	聴 講 料 (テキスト含む)	名 円	テキスト 部 円
受講者氏名		受講番号	*
"		"	*
"		"	*

* 印はご記入に及びません。

(4) 第2回見学会 (難波線シールド工事見学会)

1. 期 日：(1班) 1968年11月20日(水)
(2班) 1968年11月21日(木)
2. 見学先：近畿日本鉄道難波線シールド工事(複線型機械シールドによる掘進)
3. 集 合：各班とも13時45分までに近鉄難波線建設工事局シールド工事事務所へ集合
大阪市天王寺区上本町6丁目1-3, 電話大阪(06)772-0041
市電小橋西之町電停(上本町6丁目電停より東へ次の電停)の西南
14.00~17.00 見学
4. 参加費：無料
5. 定 員：各班30名
6. 申込期限：1968年11月1日(金)
7. 申込方法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および参加希望班名(1班または2班)を明記(様式随意)し、土木学会関西支部へお申し込み下さい。
申込期限内に定員を超過したときは、ご希望に添いかねることがありますのでご了承下さい。
参加者には11月1日以降に参加証をお送りします。

(5) 第3回見学会 (新幹線六甲ずい道見学会)

1. 期 日：1968年11月29日(金)
2. 見学先：国鉄山陽新幹線工事局神戸工事区
3. 集 合：(A班) 11月29日9時15分までに阪神電鉄本社前(大阪中央郵便局西入 国鉄大阪駅西南)
(B班) " 10時40分までに国鉄神戸駅中央正面南広場前
4. 行 程：9.30 阪神電鉄本社前発——10.40 神戸駅経由——11.00 神戸工事区着、説明、昼食——13.00 見学
15.30 発——17.00 国鉄 大阪駅着 解散
5. 参加費：300円
6. 定 員：100名(先着順)
7. 申込期限：1968年11月14日(木)
8. 申込方法：参加希望者は、勤務先、連絡先、氏名および集合場所(A班またはB班)を明記(様式随意)のうえ、参加費300円を添えて、土木学会関西支部へお申し込み下さい。参加証をお送りします。

(6) 学生見学会

1. 参加者資格：土木学会学生会員(ただし申込期限までに入会手続のすんだものおよび大学院学生の正会員も有効)
2. 参加費：100円
3. 定 員：各回60名
4. 申込要領：参加希望者は学校名、氏名、および参加回名(第2回または第3回)を明記し、参加費100円を添えて各学校の学生班長を経由のうえ申込期限までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。
申込期限内に定員を超過した時は学校別に人員の割当てをいたしますからお含みおき下さい。
学生班長は申込先順位番号を付して一括申し込んで下さい。

第2回(大阪空港見学会)

- 期 日：1968年11月20日(水)
見学先：大阪空港——滑走路渠道地下道、格納庫、国際線管理関係
集 合：11月20日12.45までに神戸大学土木工学教室前
行 程：13.00 神戸大発——14.00 大阪空港見学 17.00 発——18.00 阪急電鉄六甲駅着解散
申込期限：1968年11月5日(火)

第3回(堺臨海工業地帯見学会)

- 期 日：1968年11月30日(土)
見学先：大阪府企業局堺臨海工業地帯、工場
集 合：11月30日13.15までに天王寺鉄道管理局前道路北側歩道地点

(国鉄天王寺駅東出口より東へ約 300 m 北側歩道地点)

行 程：13.30 天王寺発—14.30 大阪府臨海センター着 説明、映画、展示、見学 15.00 発—15.40 日立造船見学
16.00—16.10 関西石油見学 16.20—16.30 ゼネラル石油見学 16.50—18.00 天王寺着解散

申込期限：1968年11月14日(木)

(7) 学生映画会

1. 上映映画：尾道大橋 (16 ミリカラー 55 分)、明石海峡海底記録 (16 ミリカラー 40 分)、
地下鉄 2 号線 (16 ミリカラー 30 分)
2. 日時および場所：1968 年 12 月 6 日 (金) 14 時 40 分 立命館大学理工学部 6 号館 67 号室
" 7 日 (土) 13 時 京都大学土木総合館 155 号室
" 9 日 (月) 15 時 大阪大学工学部本館 4 階講堂
" 10 日 (火) 16 時 20 分 大阪工業大学本館 (旧) 4 階第 II 講堂
" 11 日 (水) 13 時 神戸大学工学部 306 教室
" 13 日 (金) 15 時 近畿大学 19 号館 2 号教室
" 14 日 (土) 13 時 20 分 大阪市立大学土木工学教室第 2 講義室
3. 参加費：無料 正会員の方の参加も歓迎します。

(付 1) 出版案内：関西の土木 100 年

関西支部創立 40 周年を記念して出版された本書は、古くから王城の地として絢爛たる文化が栄えた近畿—関西—地方に、近代的な土木工事の手が加えられた跡をたどったものである。単なる関西地方の工事記録ではなく、日本の土木技術史の役割をも果たしており、鋭い見通しと最新技術で事に当たった先人の偉業に鼓舞激励され、発展・改良・災害の記録に教えられるところが多い。ご一読をおすすめします。

体 裁：B5判 8ポ一段組 上製本 321 ページ 一部多色刷り 図、写真、表多数、昭和 43 年 5 月出版

内 容：第 1 章 国鉄／第 2 章 私鉄・地下鉄／第 3 章 道路／第 4 章 橋梁／第 5 章 河川—淀川の変遷／第 6 章 港湾—
大阪港・神戸港／第 7 章 ダム／第 8 章 電力／第 9 章 上水道／第 10 章 下水道／第 11 章 地盤沈下／第 12 章
高潮／第 13 章 地震・風水害／第 14 章 教育／第 15 章 関西支部 40 年史

価 格：特別頒価 700 円 送料 100 円

騒音・振動公害

本書は土木学会関西支部、騒音・振動委員会がこの 2 年間にわたり、主として建設工事、交通機関などによる騒音・振動について調査、研究した結果をまとめたものです。

役所でその処理にあられる方々や、工事の施工、計画、設計にあられる人達に直接役立つことを目標に書かれていますが、一般の方々にも啓蒙の書としてぜひ一読下さるようおすすめいたします。

内 容：総説／騒音・振動の測定法と測定計器／騒音・振動公害の実態／騒音・振動の影響と許容値／騒音・振動の軽減対策／付録 (関係法規)

体 裁：B5判 8ポ一段組み 上製本 196 ページ、昭和 43 年 3 月出版

頒 価：1 000 円 送料 100 円

申込方法：ご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部 (郵便番号 537 大阪市東成区中道元町 1 丁目 149 番地、振替口座大阪 82599 番、電話大阪 (06) 981-2510 番) へお申し込み下さい。

(付 2) テキスト廃棄予告

つぎのテキストは 1968 年 12 月 31 日以降廃棄処分するかも知れませんから、ご入用の方は至急関西支部へ頒価および送料を添えてお申し込み下さい (先着順)。

最近の交通問題とその対策 (昭和 33 年度刊)	頒価 400 円	送料 80 円
海岸工学の最近の進歩 (昭和 35 年度刊)	" 700 円	" 80 円
昭和 36 年度関西支部年次学術講演概要 (昭和 36 年度刊)	" 無 料	" 80 円
セメントコンクリート (")	" 225 円	" 80 円
溶 接 構 造 (")	" 200 円	" 80 円
都市環境衛生 (昭和 37 年度刊)	" 450 円	" 80 円

中部支部行事案内 (郵便番号 460 名古屋市中区三の丸二丁目 5 番 1 号)
建設省中部地建企画室 電 (052)962-6311 内 375)

(1) 土と岩の強度と変形—その基礎計画への適用に関する講習会 ◀ 11 月 25 日 (月) ▶

- 共 催：日本材料学会・同関西支部
 協 賛：土木学会関西支部・土質工学会関西支部・日本建築学会近畿支部・土木学会中部支部
 1. 期 日：1968 年 11 月 25 日 (月)
 2. 会 場：大阪科学技術センター 4 階 401 号室
 3. 定 員：150 名
 4. 講師および題目：本誌 12 ページ参照。
 5. 聴 講 料：学生会員：1 000 円，会員（協賛学会会員）：1 500 円，非会員：2 000 円（いずれも教材 1 部を含む）

(2) 地盤薬液注入工法講習会

- 共 催：日本材料学会・土木学会・日本建築学会・農業土木学会・高分子学会・土質工学会ならびに各支部
 1. 開催地・会期・会場：

開催地	会 期	会 場	定 員
大 阪	10月29日(火) 9.30~16.30	大阪科学技術センター 8階ホール 大阪市西区うつぼ1丁目 118	300 名
名 古 屋	11月1日(金) 9.30~16.30	東海建築文化センター 9階ホール 名古屋市中区南武平町1の12 (昭和ビル)	250 名
東 京	11月12日(火) 9.30~16.30	私学会館講堂 東京都千代田区九段 4-4 (国電市ヶ谷駅)	300 名

2. 科 目：① 地盤注入工法概論／② 予備調査および試験／③ 計画および設計／④ 各種施工法／⑤ 注入効果の検討
 3. 参 加 料：1 名 2 000 円（テキスト含む：テキストは日本材料学会編 鹿島出版会発行の「薬液注入工法—指針と解説—」
 定価 1 400 円を使用する）
 4. 申込方法・申込先：下記申込書に明記のうえ参加料を添えて，日本材料学会講習会係（京都市左京区吉田泉殿町1の101：電
 (075) 761-5321）宛お申込みください。申込みのあった方には参加証をお届けいたします。
 なお，申込書には必ず参加されたい開催会場を○印で囲んでください。また，すでにテキストをお持ちの方は
 参加料は 600 円ご送金くだされば結構です。
 5. 申込締切期日はつぎのとおりです。定員に達すれば締切前でもお断わりすることがあります。早目にお申込みください。
 ■大阪地区；10月22日(火) ■名古屋地区；10月24日(木) ■東京地区；11月5日(火)
 6. 科目・時間割および講師（講師の都合により変更する場合があります）（交渉中）

科目	時 間	10月29日(火)	11月1日(金)	11月12日(火)
		大 阪	名 古 屋	東 京
①	9.40~10.50	松尾 新一郎(京大工)	松尾 新一郎	三木五三郎(東大生産研)
②	10.50~12.00	坂田 展次(積水化学)	植下 協(名大工)	福住 隆二(大林組)
③	13.00~14.10	西田 一彦(関西大工)	西田 一彦	藤井 和(三信建設)
④	14.10~15.20	日根 修三(日本グラウト)	宮沢 健(東亜合成)	坪井 直道
⑤	15.20~16.30	三瀬 貞(阪市大工)	坪井 直道(鹿島建設)	米倉 亮三(ブルドーザー)

地盤注入工法講習会申込書様式

所 属				
連 絡 先				
参 加 希 望 会 場	大 阪	名 古 屋	東 京	
送 金 内 容	参加費(テキスト含む)	名 円	参加費(テキスト用)	名 円
参 加 者 氏 名			受 講 番 号	*
			"	*
			"	*

* 印はご記入におよびません

(3) PC くい使用に関する講習会

◀ 10月1日(火) ▶

主 催：日本材料学会・土質工学会北陸支部
協 賛：土木学会中部支部・日本建築学会北陸支部

1. 期 日：1968年10月1日(火)
2. 会 場：石川県 社会教育センター 金沢市本多町 3-2 電 (31) 3291
3. 題目および講師：

開 会 の 辞

- ① 9.40~10.30 PC くい使用のすう勢
② 10.30~11.40 PC くい製造と品質と施工
③ 12.40~13.40 PC くい力学的性質
④ 13.40~14.40 くい支持力に関する諸問題と施工
⑤ 14.40~15.50 PC くい設計上の諸問題と施工
⑥ 15.50~16.40 PC くいを用いた新しい施工例

京 大 工 岡 田 清
金 沢 大 工 柳 場 重 正
京 大 工 六 車 照 熙
金 沢 大 西 田 義 親
東 急 コ ン ク 榎 田 博 臣
未 定

4. 定 員：200 名
5. 参加申込：

参加料：1名 1000 円 (テキストを含む, A5判 283 ページ 活版印刷)

申込方法：下記申込書に明記のうえ参加料を添えてお申込みください。申込締切は会期前日としますが、定員に達すれば締切ることがあります。早目にお申込み願います。

なお、申込みのあった方は参加証をお送りいたします。

申 込 先：セキサン工業 (株) 技術部 野坂恭之宛 TEL (0776) 23-0104 福井市中央 3 丁目 1 の 5

本州四国連絡橋技術調査報告書

付属資料 1. 耐風設計指針 (1967) および同解説特別頒布

本学会が建設省および日本鉄道建設公団より委託をうけて調査した結果を「本州四国連絡橋技術調査報告書」(4 冊一組)として頒布いたしました。そのうち、付属資料 1. の下記指針は、学術的、技術的にもきわめて貴重なものであり会員からの要望もありますので委託者のご厚意により限定部数にかぎり増刷の許可を得、下記により頒布しますので希望者は至急お申込み下さい。

記

目 次：第 1 章 総 節 / 第 2 章 風の特性 / 第 3 章 風速の変動 / 第 4 章 設計風速 / 第 5 章 静的設計 / 第 7 章 動的解析 / 第 7 章 構造物に対する風洞実験 / 第 8 章 架設中その他の問題点

A 判 120 ページ, 活版印刷

頒 価：1200 円 (送料 100 円)

頒布部数：300 部

申込要領：前金で土木学会刊行物頒布係へお申込み下さい。

付属資料 2. 耐震設計指針 (1967) 同解説および耐震設計詳説特別頒布

標記報告書は、増刷の許可を得て“応答を考慮した長大橋の耐震設計に関する講習会 (7 月 16 日開催)”のテキストとし頒布いたしました。まだ残部がありますのでご希望の方は至急お申込み下さい。

目 次：第 1 編 本州四国連絡橋耐震設計指針 (1967)・同解説 / 第 2 編 耐震設計詳説 第 1 章 諸論 / 第 2 章 設計に用いる地震動 / 第 3 章 地震時の土圧および水圧 / 第 4 章 下部構造 / 第 5 章 吊橋 / 第 6 章 カンチレバー橋 / 第 7 章 アーチ橋

頒 価：1500 円 (送料 100 円)

頒布部数：150 部

申込要領：前金で土木学会刊行物係へお申込み下さい。